

県営中山間地域総合整備事業

県土づくり本部
農山漁村課

【中山間地域の役割】

中山間地域は、適切な農業生産活動を通じて、**食料の安定供給**はもとより、**県土や環境の保全**、**水源のかん養**など、県民の生活基盤を守る多面的機能を有している。

【中山間地域の現状】

中山間地域は、**傾斜地が多く**、**ほ場が狭隘で不整形**など農業生産条件が不利なことから、**生産性が低く**、また、**担い手の減少**や**高齢化が進行**していることなどから、**耕作放棄地が増加**している。

【事業目的】

中山間地域の特性を活かした農業の展開と豊かで活力ある農村づくりを推進するため、**農業生産基盤**及び**農村生活環境基盤**の整備を総合的に実施する。

【事業内容】

農業生産基盤の整備

(ほ場整備、農業用排水路整備、農道整備、暗渠排水整備など)

農村生活環境基盤の整備

(農業集落道整備、農業集落排水施設整備、活性化施設整備など)

有田町の棚田



耕作放棄地



県営中山間地域総合整備事業(西有田西部地区) 位置図

(テーマ) 『ため池と棚田』先人の心を受け継ぐ農の里づくり

実施地区

岳の棚田
(日本棚田百選)

多くのため池



【地区の現状】

農地は狭隘、不整形で、排水条件も悪い。
土地改良施設の老朽化による機能の低下。
集落内道路が狭く、通行に支障を来している。
都市住民等との交流の場がない。 など

【目的】

地域特性を活かした農業展開
豊かで活力ある農村づくり

・生産基盤整備
・環境基盤整備

【地区の概要】

- [地区名] 西有田西部地区(西松浦郡有田町)
- [工期] 平成8年度～平成13年度
- [総事業費] 1,960,000千円
- [受益面積] 162ha
- [受益者数] 724名
- [整備内容] **農業生産基盤整備**

- ・ほ場整備18.7ha
- ・農業用排水路13,773m
- ・農道6,841m
- ・農地防災施設(ため池)3箇所

農村生活環境基盤整備

- ・集落防災安全施設(防火水槽)2箇所
- ・農業集落道路401m
- ・体験農園1箇所、農作業準備休憩施設1棟
- ・有機肥料供給センター1箇所、農村公園1箇所

[農業用排水路の現状]

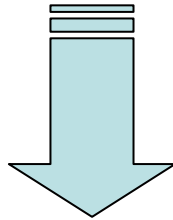


[農道の現状]



【事業による環境の変化】

地区内の「**棚田**」の整備による効果



農作業の省力化等による農業生産の維持

『**棚田の持つ多面的機能の発揮**』

美しい農村景観の保全

洪水の防止

水資源の涵養

生態系の保全 など



【岳の棚田(日本棚田百選)】

【事業を巡る社会経済情勢の変化への対応】

「体験農園」・「農作業準備休憩施設(棚田館)」の整備



都市農村交流の推進

『岳信太郎棚田会(地域組織)』の設立

棚田オーナー制度
そば・大豆のオーナー制度
子ども達の農業体験
留学生との交流 など



【棚田オーナーによる田植え】

【事業により整備された施設の維持管理状況】

「農村公園」・「農作業準備休憩施設(棚田館)」

・そば打ち体験
・農作業の休憩
などに利用

有田町において維持管理
(約30万円/年の管理費)

(光熱費・委託料など)

有機肥料供給センター

有田町  JA伊万里

【棚田館】



土地改良施設

農家主体となった維持管理



[年間堆肥製造量]

計画: 3,138t 実績: 2,380t
畜産農家が減ったことなどによる牛糞搬入量の減

将来の維持
管理が不安



ため池の浚
渫は多額の
費用が必要



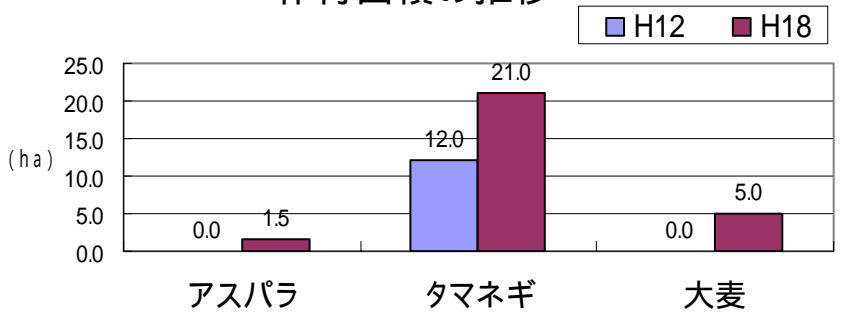
【ほ場整備などによる効果】

タマネギや大麦等の作付面積の拡大



[ほ場整備後(大区画化・排水改良など)]

作付面積の推移



大型機械の導入による営農経費の節減

[水稲における営農の変化(H12 H18)]

労働時間(時 / ha)

825 ⇨ 342

労働賃金(千円 / ha)

1,015 ⇨ 407

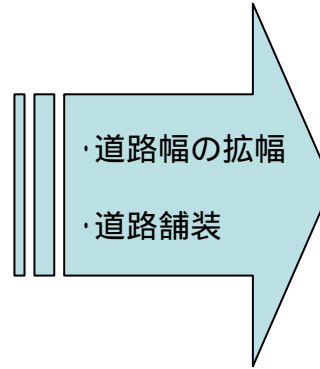
機械経費(千円 / ha)

377 ⇨ 187



農道整備による農産物輸送の省力化

[整備前]



[整備後]



都市と農村交流による地域活性化

[体験農園での田植え体験]



[棚田館でのそば打ち体験]



【県民（受益者）の意見】



ため池の日常管理(草刈りなど)は定期的に行っているが、漏水対策や土砂の浚渫など、今後も行政の支援をお願いしたい。

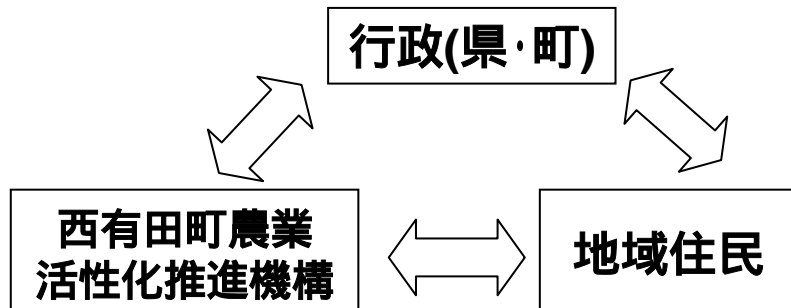
農道やほ場の整備により、高生産性機械の導入が可能となり、農業経費の削減や担い手への農地集積に大きく貢献した。

ため池の整備により安全性が確保され、住民の生命と財産を守ることができた。

棚田オーナー制度などの実施で、都市住民との交流による地域活性化が図られたが、活動組織のメンバーが高齢化しており、後継者を育成し、継続した活動を行う必要がある。

【地域住民との関わり】

行政・推進組織・地域住民の連携
(話し合い) により計画策定



地域住民によるイベントの開催



【棚田ウオーキング】



【野農里まつり】

【今後の課題】

アスパラや麦などの作付拡大による農業所得の向上
有機肥料供給センターなどの運営費等の軽減
土地改良施設における維持管理体制の再構築
棚田保全のための新たな体制づくり

【改善点】

高付加価値農業の展開や規模拡大等による農業所得の向上
堆肥製造量の増加や品質向上
補助事業の活用による管理費の負担軽減と農家・非農家の
共同活動による維持管理体制の再構築
県事業を活用した行政・地元NPO・地域住民などの協働に
よる棚田保全体制の構築



【参考資料】

棚田の持つ多面的機能

美しい農村景観の保全
洪水の防止
水資源の涵養
土砂流出防止
生態系の保全 など



[蕨野の棚田 (唐津市相知町)]

